

## 路地百選推薦書

推薦者氏名：鈴木 隆男

推薦する路地（のまち）の名称	モトコータウン（元町高架下商店街）
所在地	J R元町から神戸駅までの約1キロメートルの高架下

### 【推薦する理由（路地のよいところ）】

J R元町から神戸駅までの約1キロメートルの高架下に連なる商店街である。組織的には7つの単組に分かれていて運営されているようだ。神戸駅に近くなるに従い、空き店舗が多くなる。モトコーは戦後の闇市を起源に、1960年代には高度経済成長と共に、神戸港の港湾労働者や停泊する外国船の船員などの客で東京のアメ横の高架下に匹敵する賑わいを見せた。1980年代に入ると賃料の安さで若者向けのカジュアル衣料や古着の店が元町駅側に開店し始め、徐々に若者客がモトコーを訪れるようになった。1990年後半にはインターネットの普及と口コミで人通りが多くなり、2000年に入ると家賃が上昇、モトコーを離れる店が増えた。最近はこのあたりの飲食店がモトコー（元町に近い方）に出店して、なかには行列のできるコーヒーショップなどもある。

### 【写真添付】



路地	面積	約      h a	路地の延長	約      1 キロ      m
まちの成り立ち、まちの特色等の概要		<p>高架下商店街として正式に形成された年度についての資料は乏しいが、戦後の闇市をルーツとする説がもっとも多くある。三ノ宮～元町～神戸間の高架化はそれ以前の1934年に行われており、当時元町駅の位置にあった三ノ宮駅が現在の位置に移動されているため、商店スペースはこの時期にはできていたと考えられる。</p> <p>阪神・淡路大震災において神戸市街地の商店街は大きな被害を受けたが、元町高架下商店街は被害が軽微であり、店主はいち早く復旧することによって復旧初期の神戸の灯として経営されることになった。</p>		

路地のまちの概要は記入できる範囲で結構です。それぞれの枠の大きさは各自で調整願います。